

1 「本質的な問い」による単元(題材)構想について

- 単元末の振り返りにおいて、「これから先、円の面積を求めることができるようになったら、ピザをたのんだときに兄弟喧嘩をしなくてすむ」「大人になって仕事で面積を測らないといけないときに使える」等の記述があった。本質的な問い「面積をなぜ学ぶのだろう」を児童には提示していないが、単元を貫く問いや、学ぶ必然性のあるパフォーマンス課題の設定により、生活とのつながりや面積を学ぶ意義を実感することができている。児童は「面積をなぜ学ぶのか」について、今の時点での自分なりの考えをもっていると考えられる。
- 第4学年以降も面積の学習を行うため、系統立てて学びを深めることができるように、次学年でも同じ「本質的な問い」を基に単元構成をしていくことが必要なのではないかと考える。

2 単元(題材)で育成を目指す資質・能力について

【本単元末テスト正答率】知識・技能 94.6% 思考・判断・表現 93.8%

①知識・技能

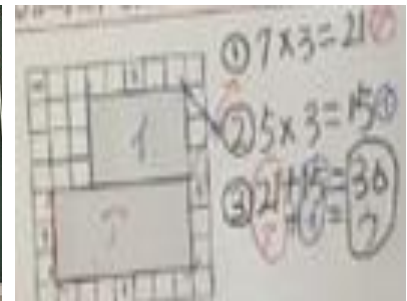
- 面積のいろいろな単位や正方形及び長方形の求積方法を理解することができた。
- アール (a) やヘクタール (ha) の単位について理解できてはいるものの、田や畑などの面積を表す場合に使うと便利であるという実感を得るまでには至らなかった。

②思考・判断・表現

- 自分の考えを図と式を関連付けながら友達に順序よく説明したり、図だけ、あるいは式だけを見て考えを説明したりすることで、論理的表現力が高まった。
- 吹き出しや記号、矢印を活用しながら根拠を明らかにした数学的表現力が身に付いた。
- 分割・補完等の解決方法を既習の学習と関連付けることで、統合的に考えることができた。
- 既習の解決方法を活用して解ける適用問題により、思考力、判断力、表現力等の育成につながった。
- キーワードを使って自分の思考の流れを振り返らせることで、思考を深化させることができた。
- 算数用語を活用して、論理的に表現する力を育成する指導を継続的に行っていく必要がある。



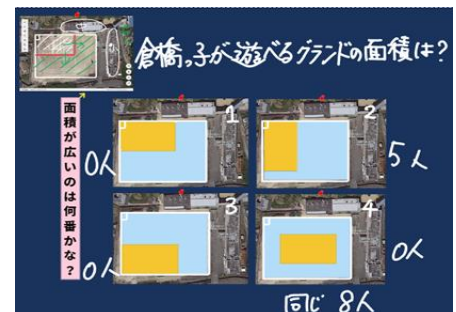
板書



児童の考え方

③主体的に学習に取り組む態度

- 「倉橋っ子が遊べるグラウンドの面積は？」というパフォーマンス課題を設定することで、単元のゴールが明確になり、児童は見通しをもち、解決したいという意欲を持続することができた。
- 学習したことを活用して、パフォーマンス課題を解決するだけでなく、学んだことを日常生活に活用しようとする態度を養うことができた。
- 今後も、前時との違いを見付けさせ、問いを自分で考えさせたり、本時の学びを振り返り、メタ認知させたりすることで、主体的に学習できるようにしていく。



パフォーマンス課題

3 「デジタル機器」の活用

- 自力解決での考えをロイロノートの提出機能を活用して提出させることで、児童の考えや誤答を把握し、集団解決で活かすことができるようにした。誤答があれば、集団解決の際に無記名でテレビに映し出し、「なぜそのように考えたのか。」と問うことで、思考過程を共有し、思考を深めさせることができた。
- 適用問題をロイロノートで送り、解答を提出させることで確実に評価を行うことができた。